

# 日本語教科書における指示詞

## — 立教大学日本語教科書の分析 —

### Demonstratives Found in Japanese Textbooks: The Analysis of Japanese Textbooks in Rikkyo University

小 森 由 里  
KOMORI Yuri

#### 〔要旨〕

日本語学習者にとって指示詞の習得が容易でないのは、非現場指示用法の指示詞の指導が不十分であるためと論じられてきた。複数の日本語教科書を分析した先行研究においても、非現場指示用法の指示詞の出現頻度が低く、またその解説が十分ではないことが指摘されている。しかしながら、本研究で立教大学の初級教科書を分析した結果、文法教科書では現場指示用法しか扱っていないものの、読解教科書には非現場指示用法の指示詞を含めさまざまな指示詞が出現していることが明らかになった。そこで本稿では、読解の教室活動において、指示詞を指導する上で教師が考慮すべき点を明示した。さらに、初級教科書の分析に基づき、文法教科書と読解教科書の改善点を示し、教科書を通した指導によって指示詞の理解および習得が効率的に進むよう提言を行なった。

#### 〔Abstract〕

It has been claimed that the neglect of the teaching of deixis in terms of discourse-reference leads to learners' difficulties in acquiring Japanese demonstratives. The previous study has also pointed out that various Japanese textbooks do not deal with an adequate number of discourse-reference deixis or explain them explicitly. The analysis of Japanese textbooks for beginner courses in Rikkyo University has revealed that grammar textbooks focus on the teaching of spatial-temporal deixis while reading textbooks include a variety of discourse-reference deixis. In order to facilitate learners' acquisition of the demonstratives, the present paper explores what teachers need to bear in mind in the teaching of Japanese demonstratives through reading activities and how grammar and reading textbooks should be improved.

**Key word:** 指示詞、現場指示、非現場指示、文法教科書、読解教科書  
demonstratives, spatial-temporal deixis, discourse-reference deixis, grammar textbooks, reading textbooks



## 1. はじめに

日本語教育において指示詞は初級段階で導入されるが、上級レベルの学習者であっても指示詞の誤用や不自然な使い方が多く見られ、指示詞の習得が容易ではないことが指摘されている。新村（1992）は、習得を困難にする要因として2つの問題点を挙げている。第一点は、非現場指示用法の不十分な指導である。指示詞は、初級の初期段階で現場指示用法が導入された後、中級、上級を通じて体系的に扱われることがないため、実際の対話や文章中で多用される非現場指示用法を体系的に指導することがほとんどないというのである。第二の問題点は、学習者の母語と日本語の指示詞用法のズレである。対照言語学に基づいた教育的研究、応用言語学的研究が十分ではないため効果的な指導法が確立されていないことが指摘されている。

立教大学日本語教育センターの日本語クラスはJ0からJ8までレベル別に分かれている<sup>1)</sup>。J1からJ7クラスまでは立教大学独自の文法教科書が使われ、J1からJ3までの初級クラスではさらに、オリジナルの読解教科書、作文教科書、語彙リストが使用されている。そこで本稿は、立教大学の日本語教科書における指示詞の扱い方を調べ、その効果的な指導法を探ることを目的とする。

## 2. 先行研究

### 2.1 指示詞の研究

日本語の指示詞は、これまでさまざまな観点から研究されてきた。指示詞の研究は佐久間（1951）の研究を出発点とするのがほぼ定説となっているが、佐久間以前は、大槻（1889）により、コ・ソ・アはそれぞれ近称・中称・遠称と呼ばれ、話し手からの距離によって区別されると考えられていた（金水・田窪 1992）<sup>2)</sup>。大槻の距離区分説に対し、佐久間は人称区分説を唱えている。佐久間は、指示詞がもの・方角・場所・人などを表し、いくつかの品詞にまたがって整然としたパラダイムを形成することを指摘している。さらに、コ・ソ・アの指す領域を人称に関連付け、コは話し手のなわばり、ソは聞き手のなわばり、それ以外の範囲にある事物はアによって指示すると説明している。

コ・ソ・アの指示領域に関し、三上（1970）は、指示詞の慣用表現「アチラコチラ」「ソコココ」などにア・コとソ・コの組み合わせはあるが、ソ・アの組み合わせがないことから、ア・コとソ・コの二種二項対立を主張している。また、阪田（1971）は、コ・ソがすべて話し手・聞き手との関係に対応しているとは限らないとし、「われわれ」という概念を導入している。話し手を中心とする場合は、話し手の領域内のはコ、領域外のはソで指示し、話し手と聞き手が「われわれ」という領域を形成する場合は、領域内のはコ、領域外のはソ・アで指示すると述べている。正保（1981）は、話し手が聞き手を心理的に疎遠な存在とみなす場合を対立型、聞き手を身近な存在とみなし「私」と「あなた」のなわばりが重なり合った「われわれ」意識の成り立つ場合を融合型と呼び、対立型ではコ・ソ、融合型ではコ・アが現れると考えている。

指示詞を人称の勢力範囲という点から捉えた分析に対し、久野（1973）は、話し手と聞き手が持つ情報知識という点に言及し、次のように分析している。文脈指示代名詞のAは、話し手、聞き手ともによく知っている対象を指示し、ソは、話し手はよく知っているが聞き手が知らないと想定される対象、あるいは、話し手自身がよく知らない対象を指示する場合に用いられ、コは、話し手だけが知っている指示対象をあたかも眼前にあるかのように生き生きと述べる場合に用いられる。

久野の「聞き手」の知識を取り入れた分析に対し、黒田（1979）は、独り言の研究を通し、独立的用法と照応的用法のどちらにも通じる指示詞の原理を模索している。その結果、話し手を中心に捉え、コ・Aは話し手が対象をよく知っていて直接体験に基づく知識である場合、ソは話し手が対象をよく知らない単なる概念的知識である場合に用いられると結論づけている。同様に、堀口（1978）もコ・ソ・Aの領域は話し手の主観によって定められると捉えている。堀口は、現場指示でも文脈指示用法でも、話し手にとって指示対象が関わりの強いものが弱いものか、強烈に指示するのか平靜に指示するのかによって、コ・ソ・Aを使い分けるとし、現場指示用法であっても、物理的距離だけではなく話し手の対象に対する心理的距離が反映されることを強調している。それぞれの指示詞の表現性の違いを、コは親近、ソは疎遠、Aは親遠とし、コ・Aは対象に対して話し手が強い関わりを持ち強指示であるのに対し、ソは穏やかに中立的・客観的あるいは自己抑制的で平静指示であると捉えている。さらに、堀口は、現場指示、文脈指示以外に、知覚対象指示、観念対象指示、絶対指示の用法を提案している。

他方、金水・田窪（1992）は、談話管理理論に基づき、現場指示、非現場指示用法を統一的に説明している。金水・田窪によると、話者の頭の中には複数の心的領域が設定されている。心的領域には、話し手の過去の経験や現場の事物の知覚と結び付いた直接経験的領域と、言語的な概念によって構築される間接経験的領域があり、聞き手の知識・知覚などは間接経験的領域に埋め込まれているという。指示詞は心的領域に登録された要素を探索する指令であり、コ・Aは直接経験的領域、ソは間接経験的領域の要素を探索すると捉えられている。また、金水は、指示詞が指定する心的な領域の違いから、コ・Aとソには違いがあると主張している。金水は、直示を「談話に先立って、言語外世界にあらかじめ存在すると話し手が認める対象を直接指し示し、言語的文脈に取り込むこと（1999:68）」と定義し、コ・Aは直示用法においても非直示用法においても、本質的に直示の性格が認められるのに対し、ソは多義で、現場における直示用法、文脈照応用法および曖昧指示用法があると分析している。

このように指示詞は、近中遠という話し手・聞き手と対象との物理的距離だけではなく、話し手と対象との時間的・心理的距離、あるいは話し手と聞き手と対象との関わりを反映したものと解釈されている。

## 2.2 日本語教科書の分析

指示詞に関する教科書分析の先行研究として迫田（1998）を概観する。迫田は、初級および

中級学習者向けの日本語教科書を調査し、その問題点を明らかにしている。

調査対象とした初級教科書は、『日本語初歩』、『日本語の基礎Ⅰ・Ⅱ』、『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ』、『*An Introduction to Modern Japanese*』、『*Situational Functional Japanese Ⅰ・Ⅱ*』、『*Japanese for Busy People Ⅰ・Ⅱ*』の6種類10冊である。これらの総合教科書を対象に、現場指示と非現場指示用法の初出課と解説の有無、各課本文で使用された指示詞の用法、形態、頻度について調査が行なわれている。調査の結果、迫田は初級教科書の主な問題として次の2点を挙げている。第一に、現場指示用法に比べて非現場指示用法の出現頻度が極めて低いということ、第二に、一部を除きほとんどの教科書において非現場指示用法に関する解説や指導がほとんど無いことである。

さらに迫田は、中級教科書として『日本語中級Ⅰ（国際交流基金日本語国際センター）』、『現代日本語コース中級Ⅰ・Ⅱ』、『日本語表現文型 中級Ⅰ・Ⅱ』、『中級から学ぶ日本語』、『日本語中級Ⅰ（東海大学留学生教育センター編）』、『英文実用日本語』の6種類8冊を取り上げ、調査を行なっている。これらの教科書では、非現場指示用法の解説の有無と用法別および形態別の指示詞の頻度が調査され、3つの問題点が指摘されている。第一に、1種類の教科書を除き、他の全ての教科書では指示詞コ・ソ・アの非現場指示用法に関する解説や指導の提示が無い。第二に、非現場指示用法の解説がなされている場合でも、説明や表現が理解しにくい。第三に、読解に重点が置かれているため、コ系文脈指示用法の頻度が高く、ア系文脈指示用法や観念CS用法<sup>3)</sup>が少ない。このように、複数の初級・中級教科書の分析を通し、迫田は、非現場指示用法の指導が不十分であることを強調している。

### 3. 立教大学日本語教科書の分析

ここでは、立教大学の日本語教科書において指示詞がどのように取り上げられているか分析する。本稿は、J1からJ3までの初級レベルの文法教科書、語彙リスト、読解教科書を主に対象とするが、中級レベルで指示詞の文法を扱っているJ5文法教科書も同様に分析対象とする。

#### 3.1 文法教科書

##### 3.1.1 J1（初級）文法教科書

初級ではJ1文法教科書でのみ指示詞が扱われている。J1文法教科書の1課で、指示詞の現場指示用法が導入されている。指示代名詞と連体詞が、以下のように英語の訳語が添えられた形で提示されている。(L1:13)

これ this one	この this	ここ here
それ that one	その that	そこ there
あれ that one over there	あの that over there	あそこ over there
どれ which one	どの which	どこ where

指示詞は、「\_\_\_\_\_は……です」の文型と共に導入されている。「この／その／あの／どの」は名詞が後続し、「ここ／そこ／あそこ／どこ」は場所を指し示すという説明がある。また、指示代名詞は、もの、場所、人称などを指示するために用いられ、コ・ソ・アは、話し手、聞き手からの物理的距離によって使い分けられると解説している。

### 3.1.2 J5（中級）文法教科書

J1の1課に続き、J5文法教科書の1課でも、「こ・そ・あ・ど Expressions」として指示詞が取り上げられている。教科書では、まず復習項目として現場指示用法のコ・ソ・アと文脈の中で用いられるソ・アの用法を扱っている。前者の現場指示用法については、話し手、聞き手から対象までの距離によってコ・ソ・アが使い分けられること、後者については、話し手だけが知っていることにはソ、話し手も聞き手も知っていることにはアで指示するという説明と例が示されている。さらに文脈指示のアを、現場指示用法のアと対比させて、話し手・聞き手が過去のことを指示する場合に用いられることも記されている。

次に、「新しいこ・そ・あ・ど words」「Special Usage of こ・そ・あ・ど words」「Idiomatic Usage of こ・そ・あ・ど words」という3つのセクションで、指示詞が導入されている。「新しいこ・そ・あ・ど words」では、次の2種類の形式が導入されている。

	新しいこ・そ・あ・ど words	formal, written Japanese
A	こんな / そんな / あんな / どんな	このような / そのような / あのような / どのような
B	こう / そう / ああ / どう	このように / そのように / あのように / どのように

A、Bそれぞれの形式に対して、英訳が添えられ、何を修飾する指示詞が英語での説明と例文が与えられている。さらに、Aの「そんな」には、会話の中で直面した衝撃的な事柄に対して、話し手が抗議や非難をする場合に使われる特別な用法があることが導入され、次のような例が記されている。

鈴木 「明日、日曜日なのにゼミがあるんだって。」  
ラオ 「そんな……。」

同様に、「えー！あんな人が好きなの？」が示され、「あんな」には話し手の否定的な感情を表す用法があることも導入されている。

「Special Usage of こ・そ・あ・ど words」では、程度を表す次の8つの表現が例と共に導入されている。

1	こんなに / そんなに / あんなに + Adjective
2	どんなに Adjective/Verb + か + Predicate どんなに Adjective/Verb + (こと) だろう (でしょう) (か)
3	こんなに / そんなに / あんなに (これほど / それほど / あれほど) Adjective/Verb/Noun
4	どんなに Adjective/Verb-て も～
5	どんなに (どれだけ) Adjective/Verb-Volitional form と (も) ～
6	こんなに / そんなに / あんなに (これほど / それほど / あれほど) Adjective/Verb/Noun とは (なんて) 知らなかった / 驚いた
7	そんなに (それほど) Adjective/Verb (negative sentence)
8	これ / それ / あれ でも～

「Idiomatic Usage of こ・そ・あ・ど words」では、以下の6つの慣用表現が英語の解説、例文と共に導入されている。

それならそうと・それならそれで	そういえば
どちらかといえば・どちらかという	どうにか
どうしても	どうにもならない・どうしようもない

初級 J1 と中級 J5 を比較すると、J1 で導入されるのは現場指示用法の指示代名詞と連体詞に限られているのに対し、J5 では指示副詞が取り上げられていることがわかる。また、コ・ソ・アの使い分けに関して、J1 では距離の違いが強調されているが、J5 では「そんな」「あんな」など、話し手の心的状況が指示詞の運用に反映することが導入されている。さらに、J1 では例文が少なく練習問題は設けられていないが、J5 では例文が数多く提示され会話文の中に適切な指示詞を入れる穴埋めの練習問題もある。このように、J5 文法教科書は、J1 で扱われていない指示詞の形態や用法を補って導入している。

### 3.2 初級語彙リスト

J1、J2、J3 の各初級文法教科書には、付随する自習用語彙リストがある。リストで扱われている指示詞や指示詞の慣用表現は、以下の通りである。

J16 課	そんなに	Adverb	So	そんなに急がないでください そんなに食べるんですか
J210 課	これから	Adverb	from now on	これからもっと一生懸命勉強する
J32 課	この前	Adverb	last time, last	この前貸した本を返してください
J35 課	この間	Noun	the other day, a few days ago	

語彙リストでは英訳や例文が与えられてはいるが、指示詞という観点からの説明はない。そのため、学習者は指示詞表現を語彙として学習することが求められている。

### 3.3 読解教科書

J1 と J2 読解教科書は 5 つの課から、J3 は 10 の課から成り立っている。各教科書は、仮名や短文を読む練習、漢字の練習、会話文、読み物などによって構成されている。本稿では、短文や質問文に含まれる指示詞は分析の対象からはずし、まとまりのある会話や読み物に含まれる指示詞を分析対象とする。また、研究者によって、指示詞の用法にはさまざまな名称が用いられ区別されているが<sup>4)</sup>、ここでは、「現場指示用法」とそれ以外の「非現場指示用法」の 2 つに大別することとする。現場指示とは、発話の現場の実物を直接指示する用法であり、非現場指示用法とは、現場指示用法以外の用法である。

J1、J2、J3 読解教科書における指示詞の出現数を用法別にまとめたものが表 1 である。

表 1 読解教科書 用法別指示詞の出現数

	現場指示用法			非現場指示用法		
	J1	J2	J3	J1	J2	J3
コ系	15	16	9	5	18	52
ソ系	0	0	0	20	24	58
ア系	0	0	2	0	0	2
合計	15	16	11	25	42	112

表 1 から次の 3 点が読み取れる。まず、どのレベルの教科書においても共通して、現場指示用法より非現場指示用法が多く出現している。読解の教科書であるため、読み物の中で文脈指示の働きをする指示詞が多く用いられることが影響していると考えられる。次に、各レベルの教科書を比較すると、J1 は指示詞の出現数が最も少なく、特に非現場指示用法の出現数が J2、J3 よりはるかに少ないことがわかる。一方、J1 とは対照的に、J3 は 10 課までであるにも関わらず、現場指示用法の出現数が極めて少なく、逆に非現場指示用法が最も多い。これは、レベルに応じて、読解テキストの種類と分量が異なるためとみられる。J1 教科書には会話文が多く含まれており、現場指示用法の指示詞が会話の中で用いられるが、J3 は、2 課、4 課、6 課に短い会話文があるだけで、説明文が主である。また、テキストの長さもレベルが上がるにつれ長くなっている。そのため、テキストが長い J3 では非現場指示の指示詞が他のレベルより多く使用されると考えられる。最後に、指示詞の形態に着目すると、3 種類の教科書のいずれにもソ系の現場指示用法が全く出現していないこと、またア系は現場指示、非現場指示のどちらの用法も J3 にしか出現していないことが明らかである。出現する指示詞の形式に偏りが見られる点には改善が必要である。

以下に、J1、J2、J3 読解教科書を個別に取り上げ、各教科書における指示詞の扱いを詳細に分析する。

#### 3.3.1 J1 読解教科書

J1 教科書にけるコ・ソ・アの出現数を、1 課から 5 課まで形態別・用法別にまとめたものが表

2である。上述のようにJ1文法教科書の1課で現場指示用法の指示詞を扱っているのに対応し、J1読解教科書の1課で現場指示用法の「これ」が、以下のように大学の地図を説明する文章の中で用いられている。

(1) これは、大学の地図です。(L1:5)<sup>5)</sup>

同様に、表2から、2課から5課まですべての課の会話文や読み物の中で、現場指示用法の指示詞が使われていることが読み取れる。しかし、その形態は「この」「これ」「ここ」というコ系の連体詞と代名詞に限られている。ソ系・ア系も文法教科書では導入されているが、読解教科書では全く使用されていない。

一方、文法教科書では扱われていない非現場指示用法のコ系・ソ系指示詞が2課から5課までの読み物に出現している。例えば、3課では練習4の会話①で非現場指示用法の「これ(2)」が用いられ、会話②では現場指示用法の「これ(3)」が出現する。

(2) 次のですと14:36発の「ひかり」ですね。これですと、17:20に京都に着きます。(L3:18)

(3) こんにちは。これ、お願いします。(L3:18)

同じ頁に2種類の「これ」が出現するため、形式は同じでも、用法が異なることを比較しながら指導する必要がある。また、5課では商店街の様子を説明する文章の中で、非現場指示用法のコとソが使われている。

(4) この喫茶店の窓から公園が見えます。(L5:37)

(5) そのアパートの前に酒屋があります。(L5:37)

表2 J1読解教科書 用法別指示詞の出現数

	現場指示用法					非現場指示用法				
	1課	2課	3課	4課	5課	1課	2課	3課	4課	5課
この		1			1					1
こんな										
これ	2	1	5	2	1		1	1		1
ここ		1	1							1
こう										
その										3
そんな										
それ							2	2	10	1
そこ										2
そう										
あの										
あんな										
あれ										
あそこ										
ああ										

同じテキストの中でコ系とソ系の指示詞が用いられた場合には、それらがどのように使い分けられているのか、言い換えは可能かどうか、学習者に理解させることが肝要である。

### 3.3.2 J2 読解教科書

J2 教科書におけるコ・ソ・アの出現数を、形態別、用法別にまとめたものが表3である。J1と比べると、J2 読解教科書では現場指示用法の出現数が減り、非現場指示用法の指示詞が各課で万遍なく用いられていることが表3から読み取れる。また、文法教科書で導入されていない形態の指示詞が用いられている点も注目すべきである。2課に出現する「このような」と「そう」がそれである。特に、指示副詞「そう」は、会話文では応答を表す「そう」、読み物の中では直前の文の述部を代用する「そう」が使われ、同じ形式であっても、異なる機能の「そう」が同じ課で導入されている。

また、J2 では非現場指示用法の指示詞の出現数が増え、J1 と同様に、1つのテキストの中で非現場指示用法のコ系とソ系が出現する読み物がある。例えば、4課の「日本の大学生生活」の中で、「その人(6)」と「これ(7)」が次のように用いられている。

- (6) 十月はからっと晴れた日が多いです。気持ちがいいので公園へ行ったら、ジョギングしている人がたくさんいました。お年寄りの人も走っていました。その人は来年二月の東京マラソンに出るつもりだといいました。お年寄りなのにすごいなと思いました。(L4:31)

表3 J2 読解教科書 用法別指示詞の出現数

	現場指示用法					非現場指示用法				
	1課	2課	3課	4課	5課	1課	2課	3課	4課	5課
この	1						1	6		1
こんな										
このような							1			
これ	3				1		3	4	2	
ここ	11									
こう										
その						1	1	3	1	5
そんな										
それ						4	2		2	3
そこ										
そう							2			
あの										
あんな										
あれ										
あそこ										
ああ										

(7) 一月に後期の試験があります。専門の科目で研究したこともまとめなくてははいけません。

でも、これは英語で発表するので、日本語を心配しなくてもいいです。(L4:31)

(6) の「その人」を「この人」に言い換えることはできるか、言い換えることができれば、「その人」と「この人」とでは何が違うのか説明が必要である。また(7)の「これ」についても「それ」との比較が必要である。このように、コ系とソ系の使い分けについて学習者に注目させることが求められる。

### 3.3.3 J3 読解教科書

J3教科書における現場指示用法のコ・ソ・アの出現数を形態別にまとめたものが表4、非現場指示用法についてまとめたものが表5である。J3読解教科書に出現する指示詞には2つの特徴がある。まず、J1、J2読解教科書には出現していない形態が導入されていることである。ア系指示詞に加え、さまざまな指示副詞や連体詞が使用されている。現場指示用法の「あそこ」は、(8)のように2課と3課の会話文で運用されている。

(8) ほら、あそこの信号のところでは止まっているよ。(L2:10)

また、非現場指示用法の「あんなに」が1課と4課で使われている。5課では「このぐらい」「そういう」、7課では「こんな」「このような」「このように」「そんな」「そんなに」、8課では「こういう」が導入されている。さらに、表5に記した以外に、慣用表現の「あちこち」が3課と8課で(9)のように導入されている。

(9) 公園のあちこちには花が咲く花壇が作られています。(L8:60)

次に、J3読解教科書の2番目の特徴は、(10)のように後方照応が導入されていることである。

(10) これらの言葉の読み方を見てください。「青い」「空」「子」の「犬」は訓読みです。「授業」と「時間」は音読みですね。(L8:61)

このような後方照応用法の指示詞は1例だけではあるが、J3で初めて取り上げられている。さらに、指導上注意が必要なのは、J1、J2同様に文脈上のコ系とソ系である。J3教科書でも、同一テキスト内にコ系とソ系指示詞がいずれも出現することがあるため、その使い分けについて説明が必要である。

表4 J3 読解教科書 現場指示用法における指示詞の出現数

	1課	2課	3課	4課	5課	6課	7課	8課	9課	10課
この			1			1				
こんな										
このような										
これ		3								
ここ				1	1			2		
こう										
このように										
このぐらい										
その										
そんな										
そのような										
そういう										
それ										
そこ										
そう										
そんなに										
あの										
あんな										
あれ										
あそこ		1	1							
ああ										
あんなに										

表5 J3 読解教科書 非現場指示用法における指示詞の出現数

	1課	2課	3課	4課	5課	6課	7課	8課	9課	10課
この	1	1	4	1			2	3		1
こんな							1			
このような							1			
こういう								2		
これ		4	5	1	3	4	4	3	4	1
ここ					1					1
こう										
このように							1	2		
このぐらい					1					
その	1	3	3	3			9	2	4	6
そんな							1			
そのような										
そういう					1					
それ	1	2	1	3	1	1	3	1	3	2
そこ										
そう				1			3		2	
そんなに							1			
あの										
あんな										
あれ										
あそこ										
ああ										
あんなに	1			1						

### 3.4 まとめ

初級では、J1 文法教科書の1課で現場指示用法の指示代名詞と連体詞、J1、J2、J3 語彙リストで4つの指示表現が導入されている。一方、J1、J2、J3 読解教科書には、文法教科書や語彙リストで導入されていない形態・用法の指示詞が出現している。J1 読解教科書の1課では、文法教科書で導入された現場指示用法の指示代名詞と連体詞だけが用いられているが、2課以降には、文法教科書では扱っていない非現場指示用法の指示詞が会話文や読み物の中に出現している。さらに、J2、J3 と段階を経るにつれ、非現場指示用法が現場指示用法よりも数多く出現するようになる。そのため、教師は、読解教科書を通して非現場指示用法の指示詞を指導することが求められる。また、文法教科書で扱っていない形態の指示詞が読み物の中に出現することについても留意しなければならない。他方、文法教科書で導入されているが読解教科書には出現しない指示詞、つまり現場指示用法のソ系指示詞についても注意が必要である。

## 4. 指示詞指導上の留意点

立教大学の初級文法教科書では、迫田（1998）が指摘した複数の教科書の問題点と同様に、現場指示用法の指示詞に主眼が置かれ、非現場指示用法が導入されていない。一方、読解教科書では、現場指示用法に加え非現場指示用法も扱われており、J2、J3 と段階を経るにつれ、非現場指示用法の指示詞の出現数が増加している。しかし、読解のための教科書であるため、指示詞を取り出して解説を加えることは行なわれておらず、学習者が未習の指示詞を理解するのが容易ではないことが推察される。そこで、これまでの指示詞に関する研究結果および日本語教科書の分析を踏まえ、立教大学の読解教科書を用いて指示詞を指導する際の留意点を探ってみる。

### 4.1 文法教科書に出現しない指示詞

上述のように、文法教科書では、初級 J1 と中級 J5 で指示詞が取り上げられている。J5 はさまざまな形態や用法の指示詞を扱っているが、初級の J1、J2、J3 読解教科書を用いる際には、学習者の知識は J1 文法で学習した指示詞のものに限られている。そのため、教師は学習者の既習の指示詞と未習のものを把握する必要がある。表6は、J1 文法教科書で扱われていないが J2・J3 読解教科書に出現する指示詞をまとめたものである。J3 読解教科書に出現する「こういう」「そういう」「このぐらい」は、J5 文法教科書でも取り上げられていないため、読解練習を通して、新しい指示詞を導入する必要がある。

指示詞を指導する際には、形態だけではなく、用法にも気をつけなければならない。J3 読解教科書1課に出現する「あんなに」は、そのよい例である。

- (11) 次の日、私はお酒を飲み過ぎて二日酔いになった。頭がががん痛くて、気持ちが悪かった。『あんなに飲むじゃなかった』と後悔した。(L1:6)

J1 文法教科書では、指示詞の現場指示用法が導入され、コ・ソ・アの使い分けは、話し手、聞

表6 J2・J3 読解教科書と J5 文法教科書の指示詞

	J5 文法教科書で扱う指示詞	J5 文法教科書で扱わない指示詞
J2 読解教科書	このような、そう	
J3 読解教科書	こんな・そんな・このような このように・あんなに	こういう・そういう・このぐらい

き手から対象までの物理的距離によると説明されている。しかし、ア系指示詞には、実存する対象を指す以外に、話し手の頭の中にある対象を指示する用法がある。堀口（1978）が観念対象指示用法、金水（1999）が記憶用法と呼ぶものである。（11）の「あんなに」は、書き手が前の日の夜に飲んだ酒の量を思い起こし、それを指示したものである。このように読解教科書では、コンテキストの中で距離区分以外のコ・ソ・アの使い分けを指導することが求められる。

#### 4.2 現場指示用法のソ系指示詞

立教大学初級読解教科書の問題点の一つとして、現場指示用法のソ系指示詞が全く出現しないことがあげられる。迫田（1998）が分析した初級教科書においても、総じて現場指示用法のソ系指示詞の出現は少ないが、全く出現しないという教科書は認められない。そのため、立教大学の読解教科書を用いる場合には、現場指示のソ系指示詞の指導を補足しなければならない。

金水（1999）は、現場指示<sup>6)</sup>のソ系指示詞には、人称区分的な聞き手領域指示と、距離区分的な中距離指示の二つの用法があると主張している。指導にあたっては、これらの用法を考慮する必要がある。人称区分のソとは、聞き手の勢力範囲に属するものを指す用法である。ただし、話し手と聞き手には対立型と融合型の2つの関係があり（正保 1981）、話し手と聞き手が心理的に対立する場においては、人称区分のソは用いられるが、話し手と聞き手が重なり合い「我々」という関係になった場合には、ソは用いられない（三上 1970）。また、距離区分のソとは、（12）のように、それほど遠くない中距離を指す用法である。

（12）タクシーの客（運転手に）：そこの信号の手前で降ろしてください。（金水 1999:86）  
このように、「あそこ」と指示するほど遠くない場所を「そこ」とソで指示するのである。

#### 4.3 非現場指示用法のコ系・ソ系指示詞

迫田の分析結果によると、初級教科書では非現場指示用法の指示詞はソ系が最も多く出現し、コ系は出現が少なく全く出現しないこともある。一方、立教大学の読解教科書では、上述のように、ソ系と同様にコ系指示詞も数多く出現する。そのため、非現場指示用法のコ系とソ系指示詞の使い分けの指導が必要である。

文脈の中で用いられるコ系指示詞について、金水（1999）は、その原型は直示用法であり、直示用法の拡張として捉えている。非現場指示であっても、コ系は指示対象があたかも眼前にあるかのように直示し、生き生きと叙述する時に用いられる（久野 1973）というのである。さらに、

指示対象が存在することから、コ系は情報の焦点となるものやテキストの主題を指し示すことができる」と指摘している。また、正保（1981）は、ソ系で指示するはずのものをコ系指示詞で指示するのは、話し手が対象に強い関心を寄せていることを表すと述べている。

一方、ソ系指示詞について、金水は、言語的文脈に依存し、先行文脈によって概念的に設定された対象を指し示すと捉えている。つまり、ソ系で指示される対象は、未定・不定・曖昧の場合があり、その存在は前提とされていないと分析している。正保も同様に、ソ系は、仮定、空想、確と同定できない対象を指し示すとし、さらに、コ系とは逆に、焦点でない部分を指示すると述べている。

#### 4.3.1 J1 読解教科書

J1の5課では、次のように商店街の様子を説明する文章の中で、非現場指示用法のコ系とソ系が使われている。

(13) 本屋の右にはアパート、左にはコンビニがあります。コンビニは24時間明るいから、夜でも危なくありません。アパートの横に喫茶店があります。この喫茶店の窓から公園が見えます。静かな喫茶店なので私は好きです。コンビニの横もアパートです。そのアパートの前に酒屋があります。安くておいしいワインがあるので、どきどき買います。(L5:37)

(13) では、商店街の喫茶店には「この」で言及し、アパートには「その」を用いている。「この喫茶店」を「その喫茶店」に置き換えることは可能であるが、コで指示する対象には、ソよりも、書き手が強い関心を寄せていることが示唆される点を学習者に理解させる必要がある。

#### 4.3.2 J2 読解教科書

J2の3課の読み物「年中行事」では、10の指示詞が用いられ、そのすべてがコ系である。例えば、七夕に言及する(14)のコをソに置き換えることは可能であるが、何故コが用いられているのか学生に説明する必要がある。

(14) 7月7日は「七夕」です。この日には竹に願い事を書いた紙を結んで、川に流します。この日に晴れると、1年に一回だけ、織姫と彦星が会えるというお話があります。(L3:22)

「年中行事」というタイトルから明らかなように、この読み物では、日本の伝統的行事が紹介されている。いつどのような行事が行なわれるかが主要テーマになるため、それぞれの行事の日や行事についてはコが使用されていると考えられる。

#### 4.3.3 J3 読解教科書

J3の3課の会話文の中では、一人の話し手が同じ「理由」にコとソで言及している。

(15) A：……ということで、今日は遅刻してしまいました。すみませんでした。

B：ううん、それはすごい理由ですね。

A：では、遅刻しても授業の最初にするクイズを受けてもいいですか。

B：いいえ、遅刻は遅刻です。そして、この理由ではクイズを受けることはできません。

(L3:19)

(15) は学生 (A) と教師 (B) の会話である。遅刻した学生の話聞き、教師は遅刻の理由を「それ」で受けているが、次の発話では「この理由」と述べている。最初の発話では、教師は単に学生の長い理由の説明に「すごい」と言及しただけであったが、次の発話では、クイズを受ける正当性を主張するために学生が「理由」を長々と説明したことに気づき、「理由」を焦点化するためコを用いているとみられる。

他方、コが使えないことを指導しなければならない例もある。J3の7課の例である。

(16) 姉は好きな人ができるとやせるためにダイエットを始める。その人のためにきれいになりたいらしい。スポーツジムに行ったり、ダイエット食品をたくさん買ってくる。そして、その人とつきあいはじめると、デートに行っておいしいものを食べたり、スポーツジムに行く時間がなくなったりして、太ってくる。数カ月後、彼と別れると、姉は泣きながらお菓子やご飯をたくさん食べて、もっと太ってしまう。もし、姉がいつもやせていたいなら、いつも人を好きになっていればいいと思う。もちろん、その人とつきあってはだめだ。(L7:52)

(16) の中で、書き手の姉が好きになる人物を「その人」と指示している。ここでは、対象人物をコで指し示すことはできない。姉が好きになる人物は、文脈上設定された実在しない対象であり、仮の人物であるためである。

## 5. 教科書改善への提案

前節では、現在使われている立教大学の初級読解教科書を用いた指示詞指導上の留意点に言及したが、3節で指摘したように、教科書にもさまざまな問題点がある。ここでは初級の文法教科書と読解教科書を改善するための提言を行なう。

### 5.1 文法教科書

初級文法教科書では、J1の1課でしか指示詞を扱っていないため、文法教科書で導入される指示詞の形態や用法は限られている。一方、読解教科書では、現場指示・非現場指示用法のさまざまな指示詞がテキストの中で用いられている。その結果、文法教科書で導入される指示詞と読解教科書に出現する指示詞の間には不均衡が認められ、学習者は未習の指示詞を含む読解テキストを解釈することが求められている。J1文法教科書で解説されている距離区分説だけではテキストで用いられている指示詞は理解できないため、J2、J3の文法教科書でも指示詞を取り上げ、話し手と聞き手の情報知識や対象との心理的距離に応じて、コ・ソ・アが使い分けられる点を指

導することが重要である。文法教科書に指示詞の用法を明示することによって、学習者に読解教科書に出現する指示詞に着目させ、読解教科書を用いたより効果的な指示詞の指導をすることができるであろう。

## 5.2 読解教科書

2つの提案を示したい。まず、3節で指摘したように、出現する指示詞の形式に偏りがある点を修正する必要がある。特に、現場指示用法のソ系指示詞がJ1からJ3までのどの教科書にも出現していない点は改善しなければならない。会話文の中で、コ系と対照させてソ系指示詞を導入することが可能であろう。次に、読解文に付随する練習問題を通して指示詞に着目させ、その用法を指導することも効果的である。読解文すべてに内容理解を問う練習問題が設けられているが、指示詞に関しては、J1の2課「日本語の授業②」に出現する「これ」の内容を問う設問だけである。例えば、J1の3課の会話①②に出現する「これ」(上述例の(2)(3))とは何かを問うことで、現場指示だけではなく非現場指示用法を学習者に意識させることができる。また、J3の8課の「これら」(例の(10))の内容を問うことで、後方照応用法を指導することもできる。このように、指示詞に関する練習問題を取り入れることで、学習者の指示詞への注意を喚起し、指導しやすくなるであろう。

## 6. まとめ

日本語学習者にとって指示詞の習得が容易ではないのは、非現場指示用法の指示詞の指導が不十分なためであると論じられてきた。立教大学の初級教科書を分析した結果、文法教科書では現場指示用法しか扱っていないが、読解教科書にはさまざまな指示詞が出現し、非現場指示用法の指示詞も多数用いられていることが明らかになった。そのため、非現場指示用法は、読解の練習を通して指導することが可能となる。本稿では、読解の教室活動において、指示詞を指導する上で教師が考慮すべき点を具体的に示した。さらに、初級教科書の分析に基づき、文法教科書と読解教科書の改善点を示し、教科書を通して指示詞の理解および習得が効率的に進むよう提言を行った。

### 注

- 1) J0からJ8までのクラスレベルや対象者については、立教大学日本語教育センターHP <<http://cjle.rikkyo.ac.jp/level/default.aspx>>にその詳細が記されている。
- 2) 金水・田窪(1992:156)は、大槻文彦(1889)『語法指南』が日本初の本格的国語辞書『言海』の文法解説であり、影響力の強いものであったと説明している。
- 3) 観念CS用法とは、コミュニケーション・ストラテジーの機能を持つ観念指示用法のことである。「広島へ来るとやっぱりあれですよね……。 」のように、話し手の観念の中にあるため文脈に

は明示されない対象を、話し手が適切に表現できなかつたり表現を回避しようとしたりするとき、会話をスムーズに続行させるために「あれ」で指し示すことである（迫田 1998：98）。

- 4) 三上（1970）は直接指示と文脈指示、久野（1973）は眼前指示的用法と文脈指示的用法、黒田（1978）は独立的用法と照応的用法、堀口（1978）は現場指示用法、知覚対象指示用法、観念対象指示用法、文脈指示用法、絶対指示用法、金水（1999）は直示用法と非直示用法のように、研究者によってさまざまな名称が用いられている。
- 5) 初級の読解教科書では、漢字にルビがふられているが、本稿の例文中ではルビは省略する。また、例文中の指示詞の下線引きは筆者によるものである。文末の括弧は、下線引きの指示詞が出現する課と頁数を記したものである。
- 6) 金水（1999）は、「直示用法」という言葉を用いているが、直示用法は、現場指示用法とほぼ同じものと捉えることができる。

#### 参考文献

- 金水敏（1999）「日本語の指示詞における直示用法と非直示用法の関係について」『自然言語処理』6（4）、67-91.
- 金水敏・田窪行則（1992）「日本語指示詞研究史から／へ」金水敏・田窪行則（編）（1992）『日本語研究資料集 指示詞』ひつじ書房 pp.151-192
- 久野暲（1973）『日本文法研究』大修館書店
- 黒田成幸（1979）「(コ)・ソ・アについて」『林栄一教授還暦記念論文集 英語と日本語と』くろしお出版、pp.41-59
- 阪田雪子（1971）「指示語「コ・ソ・ア」の機能について」『東京外国語大学論集』21、125-138.
- 佐久間鼎（1951）『現代日本語の表現と語法』恒星社厚生閣
- 迫田久美子（1998）『中間言語研究——日本語学習者による指示詞コ・ソ・アの習得』溪水社
- 正保勇（1981）「(コ・ソ・ア)の体系」『日本語教育指導参考書 8 日本語の指示詞』国立国語研究所 pp.51-122
- 新村朋美（1992）「指示詞の習得——日英語の指示詞習得の対照研究——」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』4、36-59.
- 堀口和吉（1978）「指示語の表現性」『日本語・日本文化』8、大阪外国語大学 [金水敏・田窪行則（編）（1992）『日本語研究資料集 指示詞』ひつじ書房 pp.74-90 に再録]
- 三上章（1970）『文法小論集』くろしお出版